
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時10分）

◇ 福 本 栄一郎 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位 5 番、福本栄一郎君。

（2 番 福本栄一郎君 登壇）

○2 番（福本栄一郎君） 通告に従いまして、ただいまから一般質問を行います。

私の質問は人口減少問題と町のあり方についてのみの 1 点であります。町民の皆様方の暮らしの安心・安全な生活を守るため、具体的かつ満足のいくわかりやすい明確な答弁をお願いいたします。

一般質問通告書の人口減少問題と町のあり方についての 1 点目、昨年 5 月に民間の研究機関である「日本創生会議」座長増田寛也元総務大臣の人口減少問題検討分任会が公表した当町の平成 52 年、西暦 2040 年の推計人口は、人口移動が収束しない場合、4152 人、若年女性、20 から 39 歳までの方が 208 人となっています。人口減少問題、超少子高齢化に対処するための平成 27 年度予算について伺います。

次に、2 点目でございます。人口減少に伴い当町の 35 地区では既に数地区が実質的な限界集落（地区）となっています。工事などの負担金（分担金）を用意できない地区も想定されますが、地区間の格差解消の取り組みについて伺います。

3 点目、人口減少問題に対処するため自治体に地方版総合戦略（プラン作成）を平成 27 年度中に作成することになっています。地方創成戦略を強力に推進するため、機構改革を実施すべきではないか伺います。また、機構改革を実施しない場合は専任の人員を配置する考えはないのでしょうか、伺います。

4 点目、県は平成 27 年度に賀茂地域の県の出先機関を強化する方針を固めましたが、町長は県の方針をどのように捉え、どのように対応して行くのか、伺います。

5 点目、人口減は税収減につながり、暮らしの安心・安全を守る行政サービスの維持ができなくなることが予想されます。将来的に自治体が消滅する前に市町の合併の考えはあるのでしょうか、伺います。

以上、壇上からの質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 福本栄一郎議員の一般質問にお答えします。

1. 人口減少問題と町のあり方について。①「昨年5月に民間の研究機関である「日本創生会議」座長増田寛也元総務大臣の人口減少問題検討分任会が公表した当町の平成52年(2040年)の推計人口は、人口移動が収束しない場合、4152人、若年女性、20から39歳は208人となっている。人口減少問題、超少子高齢化に対処するため平成27年度予算について伺います」についてです。

詳細については平成27年度当初予算において説明させていただきますが、各種産業が活性化するとともに、健やかに暮らせるよう福祉が充実した町にすることが人口減少への対応策と考えております。

平成27年度予算においては、光ファイバ網の整備や日本で最も美しい村・ジオパーク・グリーンツーリズム事業等を更に推進することにより各種産業の活性化を図るとともに、少子化対策として出産準備祝い金制度の創設やこども医療費助成、奨学金や利子補給制度の継続、保育園・幼稚園を整備することで安心して子育てができる環境を整えてまいります。

また、町民の健康を維持することが人口減少を防ぐ手立てのひとつでもありますので、人間ドック助成金の増額や各種健康対策事業を充実させたいと思います。

②「人口減少に伴い当町の35地区では既に数地区が実質的な限界集落(地区)となっている。工事などの負担金(分担金)を用意できない地区も想定されるが、地区間の格差解消の取り組みについて伺います」についてです。

現行、分担金条例は町内一律の分担を定めていますが、ご質問主旨の限界集落で執行する事業の負担軽減の考え方については、分担金条例第4条に減免規定があり、その4条規定では「特別な理由があると認めるときは、議会の議決を経て、分担金を減免することができる」としてありますので、特別な場合が生じたときには限界集落を含めて個別案件毎に判断していくことになるかと思えます。しかし、限界集落であるという理由だけでの一律減免については、全町的に公平な執行を図る観点から特に考えておりません。

③「人口減少問題に対処するため自治体に地方版総合戦略プラン作成を平成27年度中に作成することになっている。地方創成戦略を強力に推進するため、機構改革を実施すべきではないか伺います。また、機構改革を実施しない場合は、専任の人員を配置する考えはないの

か伺います」についてです。

人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的とした「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、地域の実情に応じた施策の展開によって、魅力ある地域社会が形成されるような取り組みが必要となってきました。

議員の質問にもあるとおり、当町におきましても総合戦略を策定し推進していきますが、現在のところ機構改革をして対応する予定はありません。また、職員の配置についても未定ではありますが、新たな事業となりますので、専任となるかは別として人的配置は考慮しなくてはならないと考えています。

④「県は平成27年度に賀茂地域の県の出先機関を強化する方針を固めたが、町長は県の方針をどのように捉え、どのように対応して行くのか伺います」についてです。

県では、賀茂地域6市町の危機管理体制の確立や地域振興の連携強化に向けて予算・組織等を強化し、支援の充実を図る目的で平成27年4月1日より賀茂地域政策局と賀茂危機管理局を統合し、賀茂振興局とする機構改革を実施することになっています。

新たに設置される振興局の局長には部長級を配し、職員も15人体制から3人増員して18人にするとともに、賀茂地域の連携強化、一体的な振興を図るため、6市町長及び賀茂振興局長で構成する「(仮称)賀茂地域広域連携会議」が設置されることになっています。

人口減少、高齢化が急速に進む伊豆南部地域において、県が機構改革を行い、支援体制を強化することは、誠に心強い限りであり、今後、県、6市町でさらに連携を深め、伊豆南部地域の振興、防災力の強化を図ってまいりたいと考えております。

⑤「人口減は税収減につながり、暮らしの安心・安全を守る行政サービスの維持ができなくなるのが予想される。将来的に自治体が消滅する前に市町の合併の考えについて伺います」についてです。

議員もご承知のとおり、平成の大合併により3200余りあった市町村は現在、1700余りとなっています。下田市や賀茂郡の町でも平成13年以降いろいろな組み合わせによる合併が検討されてきましたが、平成17年に西伊豆町、賀茂村が合併して、新生西伊豆町が誕生したのみで、あとの市町は単独自治体として行政運営を行っております。

町は、単独で進むことを決めて以降、行政、議会、団体、町民が一体となって協働により、小さくても光り輝くまちづくり、「平成の花とロマンのふる里」づくりを推進しているところでございます。

なお、平成25年度に町が「日本で最も美しい村」連合に加盟した理由も、連合が、合併により素晴らしい地域資源や景観を持った村の存続ができなくなることを危惧し、小さくても自らの町や村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であるための活動を続けている団体であり、その趣旨に賛同したからであります。

合併した市町村も交付税減額や合併特例債の償還などで財政難となっている自治体もあり、単独でいくことで、厳しい財政状況での行政運営にもなりますが、コスト削減やふるさと納税、補助事業の活用により財源確保を図るとともに、下田市、賀茂郡5町で広域的で取り組める事業は連携して推進してまいりたいと考えています。

今後も、「一人ひとりが主役となり活力とやすらぎと感動のあるまち」を目指して頑張ってまいりますので、ご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○2番（福本栄一郎君） 一問一答で時間の許す限りいきます。まず最初、人口減少問題のあり方です。これは、いま町長の回答で27年度当初予算の審議はこれから行われますけれども、概略を説明してもらったんですが、一番の・・・、市町村が存続するかしないか、なぜ増田さんが日本創成会議で・・・、立ち上げて、人口減少問題検討分科会を公表して、松崎町は人口の移動が収束しない限り4152人、特に消滅する恐れがあるかないかが、女性にかかっているということですよ。208人になってしまう。

賀茂郡をみますと、東海岸、熱海市からずっと回って、なぜか河津町だけは消滅市町村896から外れているということだと・・・、そういった中で、町の今後の、20年後、30年後の長期的なビジョン、いわゆる魔法の特効薬というのはないと思います。すぐに薬を飲んだから元気になる・・・。ですから長期的な齋藤町政が描く20年後、30年後の長期的なビジョンをまず1点、教えてください。

○町長（齋藤文彦君） 実は、昨日松崎高校の卒業式がありました。いま私は松崎町で校歌を歌えるのは松崎高校だけになってしまいました。その中で、ぼくも50年くらい前になりますか、福本議員と同級生ですけれども、一緒に歌ったわけですけれども、その3番に「蓆（むしろ）にあまる繭の照り祈らむ町の和平（にぎわい）を」という言葉があるわけですけれども、これを歌いながら痛切に感じていたわけですけれども、私は、藤井議員のときにも答えましたけれども、やっぱり基本的には、雇用を増やすことが松崎が生き残る最後の手段だと思っていて、それで、私は、基幹産業である観光を中心にして、その土台に第一次産業をみて、体

験型また滞在型のまちづくりということで、全町まるごとふる里自然体験学校と、体験を通して対価を得る。教師は町民であるということで、おいしいご飯は一粒ひとつぶが立っているよということを言っているわけですから、これを基本に据えて予算を編成しているわけで、これが松崎の一番活力ができるまちづくりだと私は思っているところです。

○2番（福本栄一郎君） おそらく、いま町長の考え方は観光がくる。当然ですよ。伊豆半島・・・、観光・・・、だけど、町長、いま分類している第一次、第二次、第三次産業、・・・、観光ばかりじゃない。確かに今の観光は、松崎町の観光ですよ。いわゆる海岸ばたの観光です。海があって浜があって海水浴ができる。だったら海に面していない中川地区とか岩科地区、あるいはこの町場の中はどういうふうに考えているんでしょうか。その辺をお聞かせください。

○町長（齋藤文彦君） 町場の中といっても、やっぱり私は観光地の土台として第一次産業といっているわけで、農林漁業をいっているわけですがけれども、今いろいろ議員の皆さんも協力してくれて、桜葉、それから、また桑の葉っぱ等がそれなりの力を発揮していくような感じがするわけですがけれども、こういうようなことをやって流動人口を増やして、また健康年齢も高めて健康寿命も上げていくのがやっぱり一番いいのではないかと私は考えているところでございます。

○2番（福本栄一郎君） この1番目の質問で、だいたい私の質問が終わるつもりでいますけれども時間がある限り・・・。ですから、人口が少ない、ですから、いわゆる地方創生という主たる目的は何だと思えますか。じゃあ、お伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 地方創生の一番はやっぱり生き残るための地域活性化だと思います。

○2番（福本栄一郎君） 国で・・・いま安倍内閣で唱えた日本創生会議、これは主たる目的は、東京一極集中を解消するため、年間47万人流れ込んでいるのを6万人減らして、平成20年までに。地方へと4万人増やす。だからトータルで41万人。だから、地方から出た人は地方に戻ってください。これ以上もう東京は集中できません。東京の超過密を解消すること、あとは地方経済の活性化ですよ、この2点です。具体的なのは、この質問でありましたように平成27年度中に地方版戦略プランを作ってください・・・、国が指導してくるでしょうけれども、それについて町がいかになしてみんなが生活の・・・、雇用の場、いわゆる人口・・・、確かに面積は85.24km²ですか、そういった地域の関係なく、町というのはやっぱり人の集まり、人の集合体だと思うんです。

ですから、東京の過密をいかにしておろすか、地域で育てた子どもたちを呼び戻すかとい

う、当然進学すればだいたい9割以上が東京圏ですよ、松崎は。西よりも東に向いていますので箱根を越えていきます。それをいかにして雇用の場をつくるかというのは、町長、あなたのトップリーダーとしての考えじゃないですか。

観光も大事です。観光以外にもっと戦略的になる考えはないでしょうか。もう一度お伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 私が言っているのは、全町まるごとふる里自然体験学校じゃないけど、体験を通して対価を得ると、そして魅力的な町にして出ていった人に帰ってきてもらうということでございます。

○2番（福本栄一郎君） 町長、わかります。理想論で美しい言葉を述べていますよ。現実はそのなりに甘くないんです。私は何回も言っています。松崎の新浜通りから銀座通りを夜歩いてください。電気は確かに明るく点いています。電気料は皆さん付近の方が負担していますけれども、誰一人歩いていないじゃないですか。しかもシャッターは下り、なおかつ家屋を取り壊して駐車場。こんな状態が・・・、日本全国といえば、だいたいそうでしょうけれども、少なくとも松崎はそういった町をつくりたくない。だから、どうしなければならないということは、具体的な線が全然見えてこない。

私も歩いて聞いています。確かに人が誰も歩いていないです、町ですよ。ただ電気だけは点いています。さびしがっています。それと同時に、じゃあ、夏場の花火大会の活性化の雰囲気、11月2日、3日の秋祭りのあの熱気はとれないんですか。町長。考え方を教えてください。

○町長（齋藤文彦君） だから先ほど私が言っているとおり、松崎町がやっぱり、私の考えとしては、基幹産業を真ん中に置いて、その下に第一次産業を土台として町を活性化させるのが一番松崎としては、一番効率的な活性化の方法ではないかと私は思っているところです。

それには皆さんのご協力が必要になるわけですが、やっぱり町の人も役場がやってくれるだろう、誰がやってくれるだろうという気じゃなくて、他人事を私事にして本当に自分たちが一人ずつ立ち上がっていくようなことにならないと松崎町は活性化しないと私は思っています。そのためには、やっぱりこの前松崎の一番の財産は役場の職員だと言ったわけですが、町民の人たちとうまく盛り上げるような感じの職員にならなければ、松崎は活性しないと私は思っているところです。

○2番（福本栄一郎君） 1番目の最後にします。消滅市町村で河津町が入っていない理由はなんでしょうか。首長会議でやったと思います。その辺は話し合ったことがありますか、相馬町

長と。

話し合わなければ、町長の感じたことを述べてくれませんか。

○町長（齋藤文彦君） 相馬町長とその辺はいろいろ話し合うわけですけど、やっぱり子育て支援というのはいろいろやっているわけですけども、一番の原因はやっぱり交通の便だというようなことを各市町の首長が言います。あそこは、東に行くにも西に行くにも真ん中に出るにも非常に交通の便がいいということで、先生たちも河津には行きたいというようなことをよく言うと聞きますので、そういうことも関係しているのかなと思うわけですけども。やっぱり河津町は河津町で一生懸命子育てをやっているし、子どもが生まれる割合が非常に多いわけですから、そのようなことも加味しているところがございます。

○2番（福本栄一郎君） わかりました。その辺は積極的な考え方をお願いします。

次に2番目、地区間の・・・、35地区では、もう既に実質的な限界集落になっている。いわゆる限界集落というのは65歳以上が50パーセントを占める、こういった定義がありますよね。ちなみに、それを35地区じゃなくて松崎町がいま高齢化率が40.1パーセント、65歳以上が約3000人になっている。やがては松崎町自体も消滅する市町村じゃなくて、限界町になってしまう恐れがあるじゃないですか。数字的にいきますと、そうですね。

だから、町長が言っている皆さんの公平な考えでいきたい、確かに松崎町公共工事等分担金条例を見ますと、それぞれ率が定められています。平成25年9月の定例会で、議会で決まったんですけども、それぞれの分担金の率が決まっていますね。河川事業であるとか、土地改良、それから、道路の改良、これが、地区が広いんです、松崎町は。35区の中で。この町場の中の密集地だったらいいでしょうけれども、点在している地区もありますよね。そういった場合に橋を架けてくれとか、新たに道路を造ってくれといった場合は、当然この分担金条例がきます。確かに、この4条では減免規定がある、ただし、「議会の議決を経て」とありますけれども、この辺になると、もてる地区ともてざる地区、いわゆる負担金、準備金ができる地区はどんどん、どんどんやってくる。町長、やってくれ。負担金は支度してあります。ところが、ないところは、ただ区費だけではとてもじゃないができなくなる。

ですから、これは、市町村間と同じように、だんだん格差がついてくると思うんです。支度ができないところ・・・、できるところはどんどん、どんどんできていく。この辺の調整を、ただ議会にかけるじゃなくて、自らそういったことを町長自身が、この分担金条例をまた考える気があるんですか。いわゆる点在している集落、今は水道施設もいっています。それから電気も、もちろんこれは民間ですけども、きています。何も不便じゃないけれども、この維持修

繕費というのが年々かさんでくると思いますよ、みんな老朽化してインフラが。その維持ですらままならなくなってくる。そういった場合に、この分担金条例がきていますと、ちょっと抵抗を感じるんじゃないか。だったらば地区の方でもあきらめます、もういいです。だんだん、だんだん格差が出てくる。その辺は町長としてどういうふうに考えますか。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど檀上で答えたわけですが、限界集落であるという理由だけで一律減免については、全町的に公平な執行を図る観点からも特に考えていないと言ったわけですが、いろいろ限界集落とか何とか、いろいろあるわけですが、いま静岡新聞に1ページ、〈消えてたまるか〉というので、いろいろ載っていますけれども、佐久間町の吉沢地区の皆さんたちはがんばって、限界集落で負けないぞとがんばっている。このような気概でやってもらわないと、限界集落だからといって、そういうことをなかなか一律減免ということにはなかなかいかないのかなと考えているところでございます、今は。

○2番（福本栄一郎君） 地区の消防団が入り手がなくなる。地区の祭りもできなくなる。子どもたちがいない。若手がない。年に3回決めています花とロマンのふるさとづくりですよ。6月と9月と1月ですか、いわゆる地区一斉清掃、私が住んでいる宮内では1月にやりましたが、そういった村仕事、それ以前は、だいたいお盆の前とか、祭りの前には道づくりとか、川づくりをやっていたんですよ。あるいは村山があるところは、下刈り、枝打ち、間伐は素人は危険ですから、できませんけれども。そういうことをやってきたんです。村の財産を守ってきた。

ところが、だんだん人がなくなる。町長が住んでいるところもそうだと思うんですよ。私は聞いたんですよ、きみごがなくなったなど。地引網はあるんだけど、引き手がない。若い人はいやだと言っている。ある意味では地域資源だと思うんですけども、それはまたあとでやりますけれども。そういったことに対して、高齢化がだんだんできていて村の仕事、回覧板ですら隣の家に持っていけないような家があるんです。ごみも出せなくなっている。われわれもいずれそうなりますよ。あと15年・・・、元気でいればですよ。そういったのは、行政で手助けしてくれる考え方はありませんか。

○町長（齋藤文彦君） 一度福本議員からお助け隊の話聞いて、非常にいいことだなと思っていて、やっぱりそういうところにはそれなりに助けなければいかんと思うわけですが、お助け隊を募集するといったら、本当に皆さんが賛成して、さーっと集まってくればいいわけですが、なかなか集まってくれないというようなことがあるわけですが、そのようなことも考えていきながらやっていかざるを得ないなと思っていますところ

です。

○2番（福本栄一郎君）　それで、ある人から聞いたんですけれども、私はカラオケが好きだから1週間に1度くらい行くと。そこで話しているのは、福本さんみたいに年配者がいて、話しているのは病院の話と年金の話だと、そうでしょうねと言った。ところが病院だっただいたい峠を越して行きます。これは目が効いているあいだはいいですよ、運転ができれば。だけど、だんだんできなくなる。そういった面で、町長はふるさと創生で観光の方に力を入れる。いいですよ、そっちは光が当てられればいいけれども、かたや影の方の人たちはどうするんですか。人口約7400人、松崎町・・・、光が当たっている部分と光が当たらない部分、その調整するのは町長の考えじゃないですか。この辺はどう思いますか、まちづくりとしましてね。トップの考え方です。

○町長（齋藤文彦君）　太陽みたいに全部照らすわけにはいかないから、どうしても影ができるわけですが、その影をいかにうまくしていくのかが町政だと思いますので、先ほど言いましたお助け隊とか、いろいろな方策をやらざるを得ないなと思っています。ただ、なかなか誰がどういうふうにするかというのは、なかなか難しいものでそう簡単にはできませんが、いつも頭の中に入っているつもりです。

○2番（福本栄一郎君）　ですから、限界集落もそういった日々の生活が非常に不安を感じている。家の前の道も作ってもらいたいな、けども区長さんに話をしたら準備ができなくなる。だから、あきらめてくれないか。じゃあ、どうしたらいいでしょうか。緊急車、救急車が来ても道が入れない。担架で運ばれていくような状態。非常に困ります。その辺を町長もまちづくりとしまして、中川地区、岩科地区の方にも光を当ててください。町場の地区も公平にお願いしたいなと思います。しかも願わくば負担金・・・、公共土木の分担金もまた考慮してもらいたいなということを要望しておきます。

次に3番目です。戦略プランで強力的に進めるために機構改革・・・、今は6課2室1局ですか、だと思いますよね。これについて機構改革がいろんな事情でできない場合に、専任の人を配置して、これは平成27年・・・、いま国会で審議されていますけれども国会を通過するとどんどんくると思うんですよ。地方創生・・・、しかも国の政策はもう担当大臣まで置いたと、今の安倍内閣の担当大臣まで置いて地方に活力・・・、いかにして東京の一極集中を分散させて、地方に戻すか。地方から出てきた人は地方に帰ってください。これ以上はもう東京はいりません。地方に帰って、地方で若者は戻って、活性化してくださいということでどんどん予算がついてくると思います。その受入態勢としてやってくださいと私は言っているんです。というこ

とは職員の健康問題です、私の言いたいのは。なぜ、11時、12時まで電気が点いているんですか。私は同じ宮内ですから見に来るんですよ、点いているんです。職員の健康管理はどうするんですか。だったら人が足りないんですか。人が足らなければ募集したらどうですか。もちろん定員条例はあるでしょうけれども。その辺で国からどんどん、どんどん怒涛のごとく流れてくると思いますよ、地方活性化で。特にアベノミクスで力を入れていきますから。地方の活性化。若者を帰ってください。帰れば奨学金は免除すると言っています。そこまでやっていますよ。ですから、その辺の体制はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 私も町長をやっている、毎朝8時10分に玄関で体操をやって庁内をぐるっと回って自分の席に戻るわけですがけれども、そのときに、やっぱり企画観光、産業建設とあるわけですがけれども、やっぱり企画は政策で、観光は対策というのがゴチャゴチャになっているようなところがあって、これはちょっとあれかなと考えるところです。

それで、企画は企画として、観光と産業を付け合わせるような形になればいいのかなと時々考えるわけですがけれども、なかなか大きな改革はできないわけですがけれども、今度ふるさと納税でプロジェクトチームを作っているいろいろな課から集めてやったら、非常にいろいろな意見が出ていいよということですので、今度は地方創生になるわけですがせうけれども、専属というのは、ある程度その周りにプロジェクトチームを作ってやっていくのが一番いいのかなと、いま私は考えるところでございます。

○2番（福本栄一郎君） ですから職員が過剰な仕事体制だと思うんですよ。やっぱり職員も機械じゃないんです、人間です。限界というものがあります。ですから、その限界を超えると即病気ですよ。だったら、町長が先ほど言った職員が財産だと素晴らしいことを言ってくれましたよ。だったら、もっと職員を大事にしたらどうですか。夜、夜中、11時・・・、家に帰ってもまた明日の仕事ということで、おそらく寝つきが悪いと思うんです。

ですから、その辺が、考えて、人が足りないならどうでしょうか。さらには、機構改革をやって専任の人を、部署を置いてください。あれもこれもじゃなくて。職員が体を壊しちゃあ町長が言っている職員が財産だといった、相反する言葉じゃないですか。その辺を考えてください。

それから、専任がなければ民間の例えばNPO法人に委託するか。いまふるさと協力隊できていますね、野口さんですか、2人来ていますよね。町長はまたさらに新年度から増やすと言っていますけれど、その辺の考え方はないでしょうか。

○総務課長（山本秀樹君） 職員の関係につきましては、今現在88名ですか、その中で2名が産

休、1名が病気療養中というような状況で実質85名で動いています。そうした中で、いろいろ業務をやっているわけですが、それぞれにやっぱり重たいところ、軽いところは当然あるわけですが、今度地方創生になってからは、そこでやっぱり今の状況だと専従というわけにはいかないでしょうけど、それなりに担当という形で人員配置はしていかなければならないという話は町長等としております。ただ、あと、先ほど町長が言ったように、ただ周りをサポートする体制をそれなりに作ってやっていくという形になろうかと思えます。

なお、今度戦略等を作っていきますので、その中で具体的な事業等が各課にいろいろ振り分けられていくような形になりますが、その戦略等が改めて決まってきて、機構改革が必要なのかどうかというところの議論もそこでまた再燃してくるのかなと思えます。

○2番(福本栄一郎君) わかりました。町長、町長は職員が財産、子どもは町の宝、国の宝、世界の宝ですよね。いいことを言っていましたから職員を大事にしてください。機械には故障があります。人間には病気がありますから大事にしてくださいよ、それは。お願いします。

次にいきます。4番目、県が出先機関を強化すると川勝知事が言っていました。これは、町長が先ほど言いましたように、賀茂地区で広域連合間ですか。いや、私が調べたら、平成27年版の県民手帳、これは平成25年10月1日現在の推計人口ですよ。松崎町が7070人で、下田市を入れた1市5町が6万9632人になっています。約7万人になっています。推計人口ですよ。住民の頭数じゃないですから。おそらくそうだと思うんです。

松崎町は、今日回覧板で回ってきましたね。1月31日現在が7316人、戸数が3046戸ありますけれども、人口が県の統計から7070人になっております。そうなりますと、東部地区でいきますと、もう一つの町で7万人、8万人はざらですよ。ただし、面積だけは広いんです。そうなりますと・・・、昔賀茂支庁というのがあったんです。県庁の賀茂支庁。全部下田でできたんです、決裁が、県庁ですからね。まあ北海道ならあれでしょうけれども。副町長さんにご存じでしょうけれども。そのときに日本道路公団がマーガレットライン、南伊豆道路をやるときに、開通式に・・・、昭和47年だと思ったんですが、私の記憶が違ったらごめんなさいですけど。確かそのときに竹山祐太郎知事が伊豆はもはや僻地ではありませんと言って、賀茂支庁を廃止して今の総合庁舎をつくったんです。これはまた逆行してきているじゃないですか。川勝知事が言っていますよね。いわゆる東部地区が合併しなかった。西の方はいっぱいやりました。その辺でいかにして交通の道路網も・・・、人口がだんだん減っていく、松崎の人間は船原峠を越えて、さらには箱根を越えて行きます。東京に向かって行きます。それは国はだめだ、箱根で折り返さなければとっているけれども若者は止まりません。これは仕方ないです。

ですから、その辺の県の知事の考え方は何かあるんじゃないですか。その辺をあったら教えてください。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり賀茂の・・・、伊豆半島の先端というのはやっぱり県民所得も一番低いところだと、そして交通の便も悪いということですので、県知事が応援してやろう、応援しますということで、賀茂振興局を立ち上げていくということだと思います。また、そういうことがわかったから、私は副町長を県の方からお願いしたいということでやっていたわけがございます。

○2番（福本栄一郎君） じゃあ、町長、聞きます。副町長はいつまでいてくれるんですか。

○町長（齋藤文彦君） 一応2年という契約ですので、そうなると思います。

○2番（福本栄一郎君） だったらば、県知事をお願いして、佐藤副町長さんを任期いっぱいしてもらったらどうでしょうか。それで県との密接な関係、県とのパイプ、一番じゃないですか、これは。

副町長さんは、県知事から何か土産を持たせてくれたんですか。知事は東部地区に力を入れている。私も部下を派遣します。町長は受け取りました。何か土産というのはないんですか。持参金みたいなものは、その辺をお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） そうそうに軽々に答える質問ではありませんので。

○2番（福本栄一郎君） 町長の足を取るわけじゃないですよ。軽々ということは、私として・・・、町長、議会ですよ。我われは町民の代表です。どこが重要なことを話しているんですか。これは答えはいいです。議会をもうちょっとみてください。どこを話している・・・、ですから、いろいろな問題が出てくる。さっきの鈴木議員の避難ビル、避難タワーの関係も出てくるんです。我われは町民の代表ですから町民に向かって公表する義務があります。それを踏まえて町長に質問しているんですから。町長室に訪ねて行って個人的に教えてくれということじゃないんです。公開の場ですよ、ここは。公開の場です。我われは持ち帰って、私の質問に対してこういうふうに答えましたと、あるいは文書で書くか、口頭で言うかですよ。我われは町民の代表ですから。町長も町民の代表ですよ。そういった軽々という言葉はつつしんでもらった方がと私は思います。それはいいです。

次に、最後の・・・、時間がなくなりますので、人口減が税収減につながってくる。だから、市町の合併を考えているんですか、もう一度、再度お伺いします。

○町長（齋藤文彦君） その前にちょっと、軽々という言葉が悪いのか良かったのか、私にはわかりませんが、ただ、議会を軽視していると、そのようなことは絶対ありませんので、

それだけをご承知していただきたいと思います。

ただ、松崎町は単独でいくと決めてやっているわけですから、広域でやるところは広域でやりますけれども、単独でいきたいと私は考えています。

○2番（福本栄一郎君） やっぱり、町長、歴史は繰り返すという言葉がありますよ。なぜかという、まだ景気のいいときにみんな広域でやったんです。計算センターしかり、何もしかりです。今はどうですか、分散して、また広域で・・・、まさしく言葉のいうとおり、歴史は繰り返す。

賀茂地域がまた僻地になってきている。だから県知事が力を入れてきている。だから政策局ですか、部長級を配属してくる。市町と県との密接な関連をつくる。しかも広域を削っていく、町長が先ほど言った広域連合、これがまずかったんじゃないですか。いわゆる消防組合、土肥町まで入れましたよね。今はもちろんありませんけれど。まずは計算センターです。そして、いろんな問題があるんです。

ですから光り輝く町もいいですけども、市町の合併、これはいろんなメリット、デメリットがあるんです。いわゆる平成の大合併、それ以前は昭和の大合併、あるいは以前は明治の大合併でだんだん・・・。それは良かった点、悪かった点は、それぞれ様々な町の人に聞かなければわかりませんが、この賀茂地域としては、町長、本当に存続できるんですか。住民サービスができてくんですか、税収減で。その辺をお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 松崎は単独でいくと決めてきているわけですけど、私は、「日本で最も美しい村」連合に入ったのは本当にそれぞれ小さい町・村ですけども、本当に光り輝いて、おれたちはがんばるぞといっている中に入って切磋琢磨したいといっってこれに入ったわけですから、合併とか何とかというのは、いま私の頭の中にないわけで一生懸命松崎を磨くためにやるだけだなといま思っているところです。

○2番（福本栄一郎君） 私のモットーは、暮らしの安心・安全を訴えてく、安心して暮らせる町、と同時に若者が帰ってくる。箱根を越えて、船原を越えて松崎に定着、そのための大胆な発想ですよ。ですからインフラ整備です。

来年度予算で光ファイバー、これは皆さん待ち焦がれていたんです。若者、徳島県もそうですよね。山間部の方へ若者が帰ってきた。光ファイバー、そういった面で・・・。ですから伊豆縦貫道、いわゆるインフラ整備、そうすれば通勤圏に入ってくるんですよ。そのアクセス道路をどうするかという考え方。下田から、あるいは西海岸からのアクセス道路で、田方、三島地域のインフラ整備、そういった大胆な発想がないと、若者が定着しないんです。その辺の考え

方はどうでしょうか。

○議長（稲葉昭宏君） 福本君、申し上げます。時間が4分しかありません。延長しますか。どうしますか。

○2番（福本栄一郎君） 延長してください。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長を許可します。

○町長（齋藤文彦君） それで7市6町が固まってみんなでやっていこうとするわけですから、伊豆半島全体でがんばってあげればいいのかと思います。ただ、ここでちょっと私も議長から反問権をいただいて、いつも使わないのは、これはちょっと業腹です。

○議長（稲葉昭宏君） どうぞ。

○町長（齋藤文彦君） 一つ聞きたいわけですがけれども、福本議員がもし町長となった場合、一番松崎が活性化するためには何をしたらいいのか。またもう一つ、私に何が足りないのか、この二つをぜひ答えていただきたいなと思うところでございます。

○2番（福本栄一郎君） 反問権、確かに反対の問いだから。ただし、私の考えですがけれども、私は執行権者じゃない。だから、反問権、いいですよ。私は残念ながら、予算も人事権も握っておりません。ただ私は提案するだけです。いいですか。町長は、一般会計、26年度約36億円、特別会計を入れると65億円を握っています。職員もいます。私は子分も誰もいない、予算も金も何もない。それで反問する。ただ私は提案するだけです。私が町長になったらということはいいですがけれども、それは絶対的にあり得ないことです。私なんか町長になれるわけがないです。夢なんか見たこともないです。それはいいですよ。

ただどこで言いますと、いわゆるインフラ整備ですよ。これは長期的なビジョンです。今日明日でできる問題じゃない。ですから、それを立ち上げて、それから若者の働き場を……。いま何がニーズがあるかという、高齢化問題に当てはまると、特養施設なんかそうじゃないですか。南伊豆がそうです。昔の煙がもくもく吹くような企業なんか来ません。今はトンからミリグラムの時代です。いわゆる電波の時代です。それをいかにして生むかというのは、インフラ、いわゆる光ファイバー整備、あるいは道路整備、これは市町村単独ではできませんので、その地盤を、スタッフを置くべきことが必要だと思います。いろいろな面がありますよ。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。福本君、もう少し簡潔にお願いいたします。

○2番（福本栄一郎君） ですから、私は仮定するならば、インフラ整備だと思います。

◎会議時間の延長

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。あと6分になっていますから、少し延長になると思いますが、ご了承ください。

○町長（齋藤文彦君） 私もやっぱりインフラというのは非常に大切なことだと思っています。ただ、その光ファイバーの件で非常に交通の便が悪いところで通信網も悪いというのは、非常に気にくわないということで、県の方をお願いしていったわけですが、やっぱり川根本町の方とかもやっていて、補助金とか何とかも決まっているのに、私たちの方に新しい形で来るということはないということで、町・・・、やりましょうじゃということでやることになりました。これを・・・、ただ光ファイバーがきたからどうするかというんじゃなくて、この光ファイバーをどういうふうにして町を活性化していくかということで、これから本当に頭を使わなければいかんと思っていますので、議員さんの方にもいろいろ知恵を拝借したいなと思うところでございます。

○2番（福本栄一郎君） 私も最後の質問で、平成23年9月からやりまして、今日で16回中15回やりましたけれども、最後だと思ってください。

松崎町は売り込み、ふるさと納税を・・・、反問権にもまたあれですけども、その金を使って、いわゆる広告会社で大々的に宣伝する。町長は見たかどうか知りませんが、「降りてゆく生き方」といえば、森田映画監督でやったんですけどね、あれが根強いブームだそうですね。それはいいといたしても広告会社を使った大々的な宣伝の効果はありますか。

私は反問にお答えします。私だったらば広告会社を使って大々的にふるさと納税を使って売り込みます。なぜかというとなんか新聞の全国版の方にいろんなものが出ていますね。ふるさと納税、資金源としましてその辺はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 今年は入江長八生誕200年を迎えて、200年祭で大々的にやるわけですが、このようなことを使って進んでいきたいなと思っています。また、ふるさと納税も西伊豆町に負けないようにこれからやっていくわけですが、今度松崎町は基金を使って、それをうまく松崎の活性化のために使っていきたいなと思っていますので、これからもご協力をよろしくお願ひしたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） また反問権の続きです。空き家対策で100件くらいやりましたよね。空き家バンクの調査でね。町長の答えにあったけれど100件くらい。それへと松崎町に来る人は温泉を付けてくれますという考え方はないですか、大胆な発想ですよ。地方創生は大胆な発

想ですから。その辺はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 軽々に言えませんが、やっぱり温泉付きの空き家というのがあったらそれなりの魅力があると思いますので。温泉の配管が決まっていますので、どこにもできるというわけではありませんけれども、いろいろこの生誕200年祭という、長八の・・・、みたいな形でやりたいと思っていますので、そのようなことを考えながらやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） ですから、うまい・・・、町のトップというのは、おそらく日本全国考えていると思いますけれども、財源が伴うか伴わないかわかりませんが、いかにして広告会社、いわゆるマスコミを使うかということだと私は思うんです、私はね。新聞を毎日見えています。いろんな町で特産品をインターネットでやるとか、いろんなことをやっています。何を利用するかというのは広告会社を使いなさい。それはいいんじゃないですか、ふるさと納税を一般会計から財源で使わせてもらっても。それでやれば売り込みですよ。世間に知ってもらうために。だからインターネットも結構でしょう。お金もありますけれども、あるいは新聞の全国版とか、ちょこっと載せてもらいます。そして魅力で呼び込める・・・。西の方のある市町村では牛を1頭くれるとか小型漁船をくれるとか、そんな大胆な発想ですよ。だったら、その財源をつけてもう全国的にPRしなきゃ。視察も結構ですけども、松崎発、みんなに全国に目を向けさせたらどうでしょうか。その辺はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） さっき入江長八の200年祭のことを言いましたけれども、これに・・・、はっきりしたことは言えませんが、SBSが絡んでくると、特別番組みたいな感じで作ってくれるような感じになると思いますので、そのようなことでやっていけばいいのかなと私は思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 時間ですので、福本君、締めてください。

○2番（福本栄一郎君） 暮らしの安心・安全があって我われの老後は安心してね、この松崎で私だって個人的ですけど、終わりたいんです。安心・安全なまちづくりをお願いしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で福本栄一郎君の一般質問は終わります。